

早期変形性膝関節症に対する 膝周囲骨切り術の現状と 今後の展望

期日 | 2022年6月16日(木) 12:00~13:00

会場 | 第4会場 1階 107+108
(札幌コンベンションセンター)
北海道札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

座長 | 東京女子医科大学 整形外科 教授
岡崎 賢 先生

演者 | 秋山クリニック 院長
秋山 武徳 先生

※現地開催に加えオンデマンド配信も行います。
詳細は大会HP をご覧ください。

日本整形外科学会 教育研修講演の
単位が取得できます。
(受講料 1講演1,000円)
・ 専門医資格継続単位(N) 1単位
必須分野: 12.膝・足関節・足疾患

抄 録

「早期変形性膝関節症に対する膝周囲骨切り術の現状と今後の展望」

膝周囲骨切り術(AKO)は、年齢の比較的若い、活動的な片側コンパートメントの変形性関節症(OA)患者が適応であり、OA GradeはKellgren-Lawrence(KL)分類で2以上とされている報告が多い。しかしながら、最近では膝周囲のアライメント異常に加え、内側半月板後根損傷や半月板逸脱、さらにはBone Marrow Lesionなどの存在が膝OA進行のリスク因子であると解明され、そのリスクの高い早期OA患者に対してもAKOが検討されるようになってきた。当然、OAが軽いうちにAKOをした方が、術後成績が良好であることは言うまでもない。我々も、アライメント異常と半月板逸脱があり、痛みと10ml以上の水腫が続く場合は、術後にOA進行の予防ができると信じ、早期OAのタイミングでも積極的にAKOを行うようにしている。本講演では、早期OA患者に対するAKOの適応とタイミング、また我々が行ってきた術式の工夫と術後成績について述べ、さらに今後の展望について報告する。